



# CEReS

## Newsletter No.24

Center for Environmental Remote Sensing, Chiba University, Japan

千葉大学環境リモートセンシング  
研究センターニュース 2007年11月  
発行：環境リモートセンシング研究センター  
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33  
Tel: 043-290-3832 Fax: 043-290-3857  
URL: <http://www.cr.chiba-u.jp/> (編集: 建石)

## 2007年度 当研究センター研究公開報告

当研究センターの一般公開を千葉大学祭に合わせて、11月3日から4日まで開催しました。

当研究センターは千葉大学祭の見学コースのメインストリートから外れていますが、宣伝用看板を正門及び南門に設置した効果があり、2日間で約100人の来訪者がありました。

ここで、来訪者のパターンを分けてみます。大学受験を控えている高校生は千葉県のみならず、長野県、群馬県、茨城県などからもありました。概ね2名ないし3名で来校し、東京付近の大学祭見学を兼ねて、受験校の様子をチェックしているようです。中には受験を再来年に控えているという高校生（現在2年）も混じっておりました。



千葉大学のOB、OGの来館者は「千葉大学の現在と30年前の土地被覆」画像に興味深く見入っていました。子弟が千葉大学に在籍しているので、大学の様子を見に来たという中年の夫婦連れもいくつかありました。一方、千葉大学周辺の在住者の多くは無料配布の「千葉市周辺の衛星画像」を目的としているようでした。

このようにセンターの研究公開は直接、研究の広がりには結び付きませんが、大学祭でキャンパスを訪れ

た方々に、当センターの研究活動を知ってもらうよい機会になったと考えます。

### (プログラム)

開催日時：11月3日(土)及び4日(日)

午前10時から午後3時

開催場所：当センター 101講義室及び1階ロビー

### (解説)

(1) 大型モニター、展示ポスターによる研究紹介

(2) 宇宙から見た世界の砂漠の環境

### (映写)

南極調査のビデオ

### (配布物)

1. 千葉市周辺のQB衛星画像 (A1変型 2005年作成)
2. 千葉大学周辺の現在と30年前の土地被覆 (A3判)
3. センターパンフレット

(広報委員長 石山 隆)

## ヨルダン大学訪問

平成 19 年 11 月 11 日～18 日、建石教授とヨサファット准教授が当研究センターと部局間協定を結んでいるヨルダン大学人間社会科学部に表敬訪問をしました。12 日に建石教授が当センターの研究と教育活動を紹介し、リモートセンシング技術によるグローバル土地被覆に関する特別講義をしました。さらに 13 日、ヨサファット准教授は合成開口レーダ搭載マイクロ衛星の開発と合成開口レーダの応用に関する特別講義をしました。14 日～17 日の間にヨルダン南北における地質と土地被覆の調査をしました。現地調査の写真と地質のサンプルはデータベース化し衛星画像の検証のために使用する予定です。

ヨルダン大学滞在中に、当センターの修了者ホサム講師とアブドラ学部長と共に、ヨルダン大学本部にてモハメド副学長を表敬訪問しました。その際、両大学間における学生と研究員の交流に関して意見交換を行い、特にリモートセンシング分野における共同研究の拡大について熱く議論しました。現在にいたるまで、当研究センタ



ーではヨルダン出身の大学院生 4 人が勉学・研究を行ってきており、近い将来、この協定によりさらに学生が増加することを期待しています。

(J.T.スリ スマンティヨ)

## 計測自動制御学会 (SICE) リモートセンシングシンポジウム 開催される

2007 年 11 月 8 日、9 日の両日にわたって千葉大学松韻会館で計測自動制御学会 (SICE) リモートセンシング部会主催の第 33 回リモートセンシングシンポジウムが開催されました。第 33 回という回数からも分かるように、日本におけるリモートセンシング分野で最も歴史の古いシンポジウムです。2 日間にわたって、特別講演 2 件、一般講演 26 件の講演が行われ、大気、植生、雪氷、防災など広い分野のトピックスについて最新の研究成果が紹介されました。講演者と講演タイトルは次の通りです：

11 月 8 日 (木)

[地球観測 1] 司会：内野 修 (RESTEC)

1. タクラマカン沙漠北縁の塩類化土壌分布の評価 2：神武寛典 (千葉大学)
2. Global urban mapping by MODIS, DMSP and population data: A. Kasimu (千葉大学)
3. ALOS データによるアンデス氷河の観測研究：春山幸男 (RESTEC)

[ライダー] 司会：永井智広 (気象研)

4. 1.5 $\mu$ m インコヒーレントドップラーライダーにおける風速測定精度の評価：柴田泰邦



5. 高圧放電の伝播光偏光への作用とそのライダー応用：椎名達雄 (千葉大学)
  6. ライダー観測に基づく対流圏オゾンの起源の識別可能性：中里真久 (気象研)
- [地球観測 2] 司会：山之口 勤 (RESTEC)
7. Detection and mapping of paddy fields in Asia: Ts. Enkhazaya (千葉大学)
  8. 合成開口レーダー及びメソ気象モデルによる海上風

速推定精度の比較: 香西克俊 (神戸大学)

- 9. Extraction of water bodies using MODIS data: A. Shalaby (千葉大学)
- 10. 火山噴煙と黄砂の映像自動観測とアーカイブ: 木下紀正 (鹿児島大学)

[特別講演] 司会: 久世宏明 (千葉大学)

- S1. 新たな衛星利用の推進に向けて: 福田 徹 (JAXA)
- S2. SKYNET 観測ネットワークと衛星地球観測: 高村民雄 (千葉大学)

11月9日 (金)

[センサ1] 司会: 阿保 真 (首都大学東京)

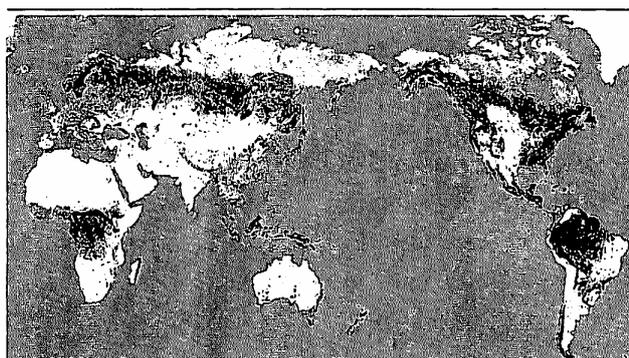
- 11. 金星探査機 Planet-C 搭載計算機による撮像制御と画像圧縮: 鈴木 睦 (JAXA)
- 12. Development of circularly polarized synthetic aperture radar onboard micro-satellite: J.T. Sri Sumantyo (千葉大学)
- 13. 航空機搭載型放射伝達スペクトルスキャナ (ARTS): 實淵哲也 (防災科研)  
[エアロゾル] 司会: 鈴木 睦 (JAXA)
- 14. 天空光の分光測定による対流圏エアロゾル特性の導出: 眞子直弘 (千葉大学)
- 15. ライダーと気球搭載パーティクルカウンタ・雲粒子ゾンデを用いた対流圏エアロゾルと上層雲の観測: 酒井 哲 (気象研)
- 16. 対流圏エアロゾルの地上および衛星観測:

久世宏明 (千葉大学)

- 17. ライダーによる成層圏エアロゾル層の長期観測: 永井智広 (気象研)  
[センサ2] 司会: 實淵哲也 (防災科研)
- 18. GOSAT の校正計画~TANSO の値付けと相互校正~: 川上修司 (JAXA)
- 19. 二酸化炭素鉛直分布観測用 1.6 μm 帯差分吸収ライダーの開発Ⅱ: 〇永井智広 (気象研),
- 20. 蛍光リモートセンシングの研究: 鈴木孝雄 (RESTEC)
- 21. SMILES L2 データ処理システムの開発状況について: 高橋千賀子 (JAXA)  
[実利用と広域観測] 司会: 宮崎忠國 (東京農業大学)
- 22. 超小型ライダーとセンサーネットワークを組み合わせた都市大気環境測定: 〇阿保 真
- 23. 都市環境が降水に及ぼす影響: 〇白木洋平 (千葉大学)
- 24. VISSR 時系列データを使った対流圏準2年変動の解析: 内藤成規 ((株) 気象海洋コンサルタント)
- 25. Regional rainfall anomalies induced by El Niño and Indian Ocean dipole mode: Bannu, (千葉大学)
- 26. 衛星データによる近年の東シベリアにおける植生変化のシグナル抽出とその要因解析: 酒井秀孝 (千葉大学)

(久世宏明)

## 樹木被覆率の世界地図 (試作版) を公開



国土地理院 (茨城県つくば市) は20日、土地が樹木などの緑に覆われている樹木被覆率を色の濃淡で示した世界地図の試作版を公開した。世界規模の「緑の地図」は初めてといわれ、中国やベトナムといったアジア諸国で森林伐採が進み、緑が減少している様子などが分かる。

人工衛星で平成15年に観測したデー

**緑の減少  
一目瞭然**

タを基に、1平方°ごとに地表の面積に対する樹木の比率を5%刻みで色分け。100%を濃い緑、50%を黄、0%を白で表した。

地図は世界各国が参加する地球地図国際運営委員会が作製、地理院はデータの解析など中心的役割を果たした。来年4月に正式に公開した後、5年ごとに更新する計画という。

産経新聞 (平成19年11月21日付け朝刊) 掲載

当センターの建石教授がワーキンググループチェアマンを務める地球地図国際運営委員会 (ISCGM) が樹木被覆率の世界地図 (試作版) を公開しました。